

2018年10月25日

中野区長 酒井直人 様

公益社団法人 日本建築家協会 中野地域会
代表 小西敏正

中野四丁目新北口地区 地区計画変更（原案）縦覧の延期の要望書（差替）

拝啓 時下益々ご清祥のことと拝察し、お慶び申し上げます。
貴職の、中野のまちづくりや文化の発展に向けたご尽力に、弊会としてここに改めて敬意を表する次第です。

さて、先週の中野区報にて「中野四丁目新北口地区 地区計画」（原案）の**縦覧**に関するお知らせがありました。

この「地区計画」の中身は素案段階では次の2つであると示されて来ました。

- ① 中野四丁目新北口地区まちづくり方針に基づき、地区計画の目標と地区整備の方針を設定
- ② 廃止する補助第225線（区役所とサンプラザの間の道路）が有している通行機能を**地区施設**として確保

ここで「**地区施設**」と記されていたものは、今般区議会資料として開示された原案においては、区役所とサンプラザの街区を一体化した敷地に建つ、超高層の建物下部を貫通する立体道路と、それを前提とする両側歩道（今回の原案における**地区施設**）などであり、新北口広場と中野通りとを結ぶ機能を有するとされるものですが、この貫通道路等は前区長の任期中に進められていた**1万人アリーナを想定**とした再整備計画を前提としており、事業協力者の画く完成予想図を下敷きにしていると考えられます。

現区長におかれましては公約として、1万人アリーナの必要性の再検証を掲げて当選され、また、検証委員会の設置に代り、区民会議を活用することとし、幣会を含む専門家団体2つをこれに加えられてまだ3ヶ月を経過していません。

区民会議における議論も始まったばかりであり、1万人アリーナを前提とした地区計画の原案を**縦覧に付する**ということは、地区計画の策定を区民会議の**議論を見据えずに**、従来の考えのまま進めるということであり、区民会議への委員派遣を求められた弊会として、これに強く異議を表明するところです。

1万人アリーナが適正な規模かどうかは、区民の間でも多様な議論があり、ホールの規模を変更する場合は、街区全体の構成が変わる可能性があります。また、1万人アリーナを前提として中央線に寄せて計画されている超高層建築物が、従来の北口広場と新北口広場を分断するという指摘もあり、中野のまちとしての一体感の醸成のために何が適切かという議論も、規模の適否と並行して必要です。これらの開かれた議論が中野区に今、必要であり、そのためには、区長のお考えであるアリーナの再検証が極めて有効です。

縦覧を開始することは、この議論を閉じさせる方向となりますので、これを延期し、地区計画の前提条件から改めて議論する機会を広く設けて頂けるよう、幣会として、ここに強く要望いたします。

敬白